

願った慰霊祭



▲慰霊祭でスピーチするゴールドワージさん

53年の時を経て 2度目の訪問

元機長のゴールドワージさんが夫妻で来日した翌日の1997年9月25日。ふれあい公園で行われた慰霊祭に、約150人が参列しました。

慰霊祭では、全員で黙とうを捧げたほか、ゴールドワージさんを最初に取り押さえた菅谷賢司さん、「米兵に危害を加えるな」と指示した菅谷敏夫さん（旧萬歳村）と再会。「友人として皆さんに会えるなんて、53年前は知る由もなかった。両国民が常に平和に暮らせるよう熱い祈りを私のメッセージに託します」などと、英語と日本語を交えてスピーチしました。献花では、ラッパで鎮魂のメロディーが流れると、ゴールドワージさんは涙を流す場面もありました。

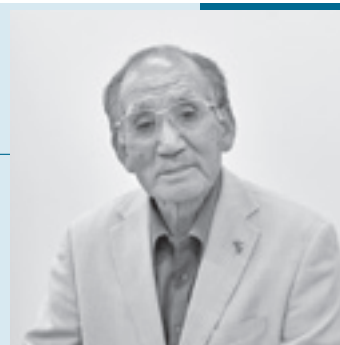
「一度目（墜落）は大変でしたが、二度目の訪問はとてもしばらしい旅です」と話し、公園内に「GOING IN PEACE」と書かれた平和の塔を建てました。

Interview

互いに平和を誓った

わたなべ きんじ
渡辺 金治さん（昭和7年生まれ）舟戸

53年ぶりに元機長が東庄町を訪問するにあたり、「B29元機長夫妻を迎える会」の渉外担当の役員として、運営にあっていた渡辺さん。会の発足や当時の思いについて伺います。



飛行機が西の空から飛来し、火だるまとなって落ちてきた1944年12月3日。今でも忘れず、まざまざと思い出します。

私は、宮崎さんから元機長来日の話を聞き、成功させるため手伝ってほしいと依頼を受けました。戦争の悲惨さ、そしてあの恐怖におびえたことが忘れられないと、即答しかねました。その反面、平和目的のためなら少なからずも役に立ちたいという信念のもと、歓迎すべきと慰霊祭に応援参加することとなりました。

しかし、事故に結びつくようなことがあってはならないと、宿泊場所、慰霊祭会場の選定を行いました。また、町が主催すべきという意見と、ボラン



▲東庄ゴルフ倶楽部で行われた友好の集い

ティアの力で実施すべきとの両論あり、結果として「B29元機長夫妻を迎える会」が結成され、ライオンズ

クラブの後援により行うこととなりました。経費の心配もありましたが、190人という多くの協賛会員の参加があり、資金も確保できました。

最も神経を使ったのは、警備上の不安でした。行事をよく思わない人たちから何か妨害などがあるのではと、警察や警備会社、関係機関へ相談し、格別の配慮をいただき、難なくことが過ぎました。

ゴールドワージさんも歓迎を大変喜んでくださいました。米国の地元では来日を止められたとのことでしたから、度胸があるなと思いました。憎しみはありません。互いに平和を誓い、犠牲になられた方を供養できました。

戦争は多くの人たちが犠牲を強いられ、衣食住から尊い命まで侵される事態でした。私の兄も終戦の3カ月前にフィリピンで戦死しました。いつの日か、兄の戦場で真実を知りたいと思っていたところ、当時の隊長や兄の戦友により、昭和60年に戦跡を巡拝することができました。ゴールドワージさんも機長として率いていたことから、当時の状況を知り、仲間の供養ができて安堵されたと思います。

平和と友好を



▲平和の塔を囲んで元機長夫妻と「迎える会」の役員の皆さん

歴史の証人として

慰霊祭後、東庄ゴルフ倶楽部で友好の集いが開かれ、敷地内にある墜落現場も尋ねました。また、夜には26日のゴールズワージーさんの80歳の誕生日をお祝いしました。

それから帰国する日までのゴールズワージーさんは、NHKの全国放送に出演したり、捕虜時代の品が展示されている江戸東京博物館や、彼を襲撃した日本人パイロットの家族に会ったりするなど、いろんな場所を訪れ、たくさんの人に会いました。

帰国後、日本行きを心配した多くの隣人や知人が、自宅に詰めかけたそうです。墜落した地を訪れることに不安を抱いていた人々は、日本で大



▲成田で色紙を受け取りにこやか

歓迎を受けたことに喜び、驚いたとのこと。また、ゴールズワージーさんは、日本での出来事を話したり、講演の依頼を受けたりと、歴史の証人となって日米の平和を願いつつ、有意義に過ごされたそうです。

私たちはどう生きるのか

会の代表であった宮崎雅夫さんの情熱は、戦時中に東庄町神代地区に墜落したB29の記録を後世に残そうと体験記を各方面に依頼し、記録文集を作ったことから始まりました。そして、この想いが慰霊祭の推進力にもなりました。

また、長澤さんがゴールズワージーさんと出会い、友人として交流する中で互いの戦争の傷跡に触れ、物語が動き出しました。自らを撃墜したパイロットや、墜落の場所を知りたい、襲撃の勇気をたたえたいとの想いに応えたのが、長澤さんでした。

そして、熊谷さんの綿密でいいねいな調査により、事実が明らかとなり、慰霊祭が行

われることになりました。現在、慰霊祭の役員をされた12人のうち5人は亡くなられ、代表の宮崎さんもご逝去されました。長澤さんとゴールズワージーさんに連絡はとれませんでした。ご健在であれば100歳を超えています。

B29が墜落したあの日、多くの人が空を見上げ、いつもとは違う、ただならぬ雰囲気を感じ、日本の戦闘機が飛び交う様子を見ていました。しかし、戦争という語らずの社会(裁判にかけられる可能性があった)の中で、町の記録として残っている資料は少ないと感じました。令和という新しい時代を迎えても、あの戦争をあの空を忘れても、平和な日々から感謝し、恒久



▲平和を願い握手 (岩田町長とゴールズワージーさん)

平和のため、戦争の悲惨さや恐ろしさを次の世代に伝えたい努力が必要があると思いをした。

《参考文献》

- 二度目の着地
B29墜落事件記録
東庄町史
香取民衆史
雑誌「丸」
POW研究会ホームページ
《写真提供》
渡辺金治さん



▶二度目の着地の裏表紙にはゴールズワージーさん夫妻のサインがある。そして、表紙と裏表紙の写真は、12月3日出撃前のB29ロゼリアrocketの搭乗員12人。

町戦没者慰霊祭

日時 8月15日(木) 10:30~
場所 町公民館 大ホール
※当日は送迎車を運行します
問い合わせ
健康福祉課 福祉係
☎79-0910